

国際医療機能評価機関JCIの認証取得に向けた小規模病院薬剤科の活動

巽病院 薬剤科

大阪府池田市の巽病院(75床)では、2014年より国際医療機能評価機関JCI(Joint Commission International)の認証取得を目指して全職員300人が一丸となって取り組み、2016年12月、日本で18番目、関西では初となる認証を受けました。JCI認証基準にある「医薬品の管理と使用」などの実践状況を薬剤科の先生方に伺うとともに、JCI認証受審の意義や経緯などを理事長の巽孝彦先生にお聞きしました。



JCI認証

薬剤科の方針、注力する業務をお教えてください。

山口 薬剤科では「薬に関して全て薬剤師が責任を持つ」を方針としています。当院は外来を含め全て院内処方であり、1日100名以上の外来患者を含む調剤業務と並行して病棟業務にも力を入れています。病棟ではベッドサイドに頻繁に出向いて患者さんの声を聞き、副作用の早期発見などに努めています。

六車 調剤では、服薬コンプライアンス向上のために、持参薬も含めて全て一包化しています。また、併設する介護老人保健施設入所者が使用する薬剤の調剤、鑑査も行っています。



薬剤科チーフマネージャー
山口 千恵 先生

JCIの審査に向けて、どのように準備を進められたのでしょうか。

山口 2014年9月に院内委員会を設け、JCI認証基準に則り14章に及ぶ手順書を作成して、当院に合った形でルールを定めました。院内委員会による事前審査、JCIのサーベイヤー(審査官)によるモックサーベイ(模擬審査)を経て、2016年12月の本審査に臨みました。

写真1 医薬品の有効期限、ロット番号が表記された分包機のカセット



薬剤科では14章のうちの「医薬品の管理と使用」(MMU: Medication Management and Use)などを中心に取り組みました。モックサーベイで受けた指摘をもとにルールをブラッシュアップしていきました。

具体的な取組み内容をお聞かせください。

医薬品の管理と使用

六車 医薬品を安全に保管・使用する上で、JCIでは使用期限の記録や保管環境の整備などが問われます。また、医薬品のリコール発生時の対応体制(ロット番号管理など)も求められます。当院では、分包機の薬剤カセット全てに、充填する医薬品の有効期限とロット番号を表示しました(写真1)。

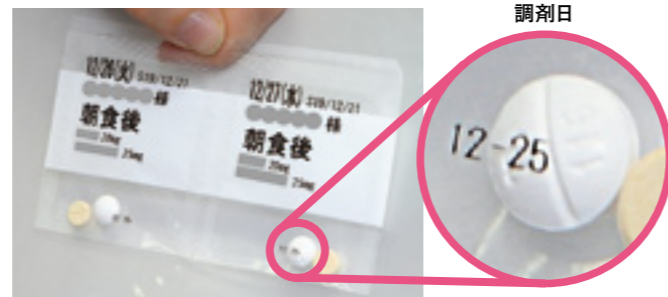
また、本来は一包化された医薬品一つひとつに有効期限を明示するのが望ましいのですが、当院では調剤日を一包化分包紙に印字するシステムを組み込む形にしました(写真2)。

なお、各部署にある定数配置薬、救急カードの医薬品も全



薬剤師
六車 真子 先生

写真2 入院患者さんの一包化分包紙に患者名、生年月日、調剤日などを印字



て薬剤科で一元管理しており、補充時は、有効期限の近い薬品には必ず使用期限を記載した紙を添えています。

医薬品の温度管理では、毎日1回、冷蔵庫の温度を確認・記録しています。要冷蔵医薬品が当院に搬入される際も、クーラーボックスの表示温度を記録するよう徹底しています。

ハイアラート薬の管理

山口 JCIの認証では「ハイアラート薬」の適正な管理も求められます。ハイアラート薬とは、ハイリスク薬も含め、個々の病院で厳重な管理を取り決めた薬剤です。当院では約170種類を指定し、独自に作成した「ハイアラート」のラベルを該当薬剤に貼付して注意喚起しています(写真3)。

写真3 アンプルに貼付した「ハイアラート」ラベル



ハイアラート

外箱だけではなく、全てのアンプルにラベルを貼付している。

また、夜間などの薬剤師不在時には看護師が調剤することを踏まえ、新人看護師の入職時に薬剤に関する研修を実施し、医薬品を扱う際の注意点などを説明しています。受講した看護師には認定証を渡し、医薬品取扱いに対する責任感向上に役立てています。

更に、ハイアラート薬に対するセキュリティ強化のために、薬局の2箇所ドアに暗証番号式の鍵を設置しました。部外者が入室する際はモニターで確認してから解錠するようにしています。

患者識別体制

六車 患者確認を確実にを行うために、ID番号とともに名前と生年月日で管理するようにしました。診察時だけでなく、薬局窓口で医薬品をお渡しする際も名前と生年月日で確認し、入院患者さんの一包化分包紙にもその両方を印字しています(写真2)。患者さんには同姓同名による間違いを防ぐためとご理解いただいた上で実施しています。

JCI審査では、どのような指摘を受けましたか。

六車 モックサーベイでは、震災など大規模災害を想定した薬剤備蓄量や、その数量の根拠などを質問され、細かな部分までしっかり把握しておく必要性を実感しました。また、疑義照会の履歴を保存するよう指摘され、以後、文書管理しています。

山口 卸会社の医薬品搬送車両の衛生状況も本審査では聞かれました。事前にその質問を想定し、卸会社の協力を得て搬送車両の荷室の写真を撮っておき、医薬品が衛生的に積

まれていることを示しました。

また、インフルエンザをはじめワクチン接種患者とワクチンのロット番号の紐付け管理の必要性も指摘されました。そのシステム化が今後の課題です。

JCIの認証を取得してのご感想、今後の展望をお聞かせください。

六車 ハイアラート薬の扱いなど、医薬品の安全性に対する院内の意識が高まりました。JCIの認証取得はもちろん大きな成果ですが、認証に向けて病院全体で取り組み、安全性を高めることに意義があると実感しています。

山口 2017年に改訂されたJCI認定基準の最新バージョンでは、抗菌薬の適正使用に関する規定が盛り込まれました。2019年の再審査に向けて、病院独自の抗菌薬使用ガイドラインの作成など準備を進めていく予定です。

JCIの認証は、小規模病院だから取得可能

JCIの認証取得を決意したのは、「医療の質(醫質)向上や医療安全の推進といった取組みを自己満足で終わらせてはいけない。そのためには、定評ある客観的評価による定期的な受審が必要だ」と考えたからです。

JCIのグローバルな審査基準は、病院規模に左右されることがありません。基準に則り、各病院に合う方針や手順を各々が作成することで、小規模病院でも世界標準の認証が受けられるのです。しかも、現場での実践度が問われることも、JCI認証取得を目指した理由でした。そして、これらの点には、小規模病院の方が有利なことも多々あります。

JCIの特徴は、医療安全の取組みを「見える化」つまり数値化して評価することにあります。薬剤科には、世界標準で薬剤業務を行っていることを、今後も「見える化」によって示してもらいたいと期待しています。

医療安全の取組みは継続しなければ意味がありません。JCI認証規準は定期的に更新されますので、当院の活動内容もそれに応じてアップデートし続け、世界標準を維持していきたいと思います。(談)



理事長
巽 孝彦 先生

医療法人マックスール 巽病院
大阪府池田市天神 1-5-22

- 病床数: 75床
- 薬剤師数: 8名

〈2017年12月現在〉

